

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和4年3月12日

事業所名 児童デイサービスまはろ天久

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8			児童人数に応じて部屋を使い分けをしている。	児童が落ち着いて過ごせる場所を目指し設備等の見直しを行いより満足度の高い事業所を確立していく。
	2 職員の配置数は適切である	8				適切な基本配置を今後も継続していく。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	4	3		段差など出来る限りバリアフリー化を目指し対応していく。
業務 改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	1			
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	1	1		
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	1			
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	3			評価結果を真摯に受け止めて改善できる箇所から対応していく。 また、スタッフ一同の情報共有を行う。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	3		他事業所への研修を設けている。	各スタッフの研修を増やし、研修を受けたスタッフは受けてないスタッフへの情報共有(勉強会)として開催していく。
適切な 支援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7	1			
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	4		チャットワークを通して児童情報の共有している。	チャットワークの有効性をスタッフ全体で共有していくことで状況把握を常に出来るように図っていく。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	5	3			
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	1			
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7		1		
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8				専門職スタッフを配置したことで更に満足度と質が高い計画を作成を行っていく。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8				朝礼で分担の確認と更にチャットワークにてメモに残すことで全員が適切に支援等が出来るようにしていく。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	1		チャットワークを通して児童情報の共有している。	チャットワークを通して児童情報の共有引継ぎは行っているが必ず支援終了後に打合せは出来てないので必要に応じて当日の振り返り(打ち合わせ)を行っていく。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	2		実績表に記録している。	実績表の記録があるが更にチャットワークにも支援様子の記録保存している。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8			管理者が見直し必要性を判断。	モニタリング会議は管理者が主に参加しているが今後は管理者以外のスタッフも参加することでサービス計画の見直し判断を行い利用者様に満足できるサービスを提供していく。
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	6	2				

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標	
関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最もふ さわしい者が参画している	8					
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等 の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡 調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連 絡)を適切に行っている	6	2			お迎えの際に学校での様子を伺いでデイでの支援に 活かしている。また、学校でのお知らせ等についても情 報共有は出来ているが下校時間の把握が出来ずにお 迎え時間に支障を起こしたので今後は気をつけて対応 していきたい。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場 合は、子どもの主治医等と連絡体制を整え ている		7	1			
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認 定こども園、児童発達支援事業所等との間 で情報共有と相互理解に努めている	4	4				就学前の様子は保護者様からヒヤリングにて対応して いるが、各関係機関への情報共有は出来てないので今 後は関係機関との相互理解に努めていきたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業 所から障害福祉サービス事業所等へ移行す る場合、それまでの支援内容等の情報を提 供する等している	6	2				障害福祉サービス移行への事例が無い。 今後、児童が福祉サービスへ移行する際は支援 内容等の情報は個人情報の範囲内で提供して いきたいと考えています。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援セ ンター等の専門機関と連携し、助言や研修 を受けている	4	4				専門機関との連携出来てない。 今後は研修や助言を受けていながら専門機関との 関係性を築き上げたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障 がいのない子どもと活動する機会がある	2	2	4			コロナ過で出来てないですが今後、収束の方向に向 かっていくと同時に最大限の注意を払いながら検討し ていきたいと考えてます。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加 している		7	1			県や市の協議会に参加していき現状把握に努めてい く。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合 い、子どもの発達の状況や課題について共 通理解を持っている	8			送迎時の引継ぎや連絡 ノートに記入して貰って いる。		今後も現状維持にて継続していく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保 護者に対してペアレント・トレーニング等の支 援を行っている	5	2	1			現在は支援は行ってない。 必要な保護者様に研修の案内や専門機関への引継ぎ 対応支援していく。
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等につ いて丁寧な説明を行っている	8					
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談 に適切に応じ、必要な助言と支援を行って いる	8					
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等 を開催する等により、保護者同士の連携を 支援している	3	1	4			コロナ過で出来てないですが今後、収束の方向に向 かっていくと同時に最大限の注意を払いながら検討し ていきたいと考えてます。個別面談・相談会も検討して いく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応 の体制を整備するとともに、子どもや保護者 に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適 切に対応している	7	1				
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事 予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者 に対して発信している	7	2		月カレンダーやブログに て支援様子を発信。		今後もSNS等のツールを使用し保護者様に満足でき る内容を伝えていけるよう発信していく。
	35	個人情報に十分注意している	8					
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎 通や情報伝達のための配慮をしている	7	1				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地 域に開かれた事業運営を図っている	1	5	2			今後は、地域住民を招待できる事業運営を考え地域 密着型の事業所を目指す。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時 等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	4	1		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	1			
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	1			まはろ統括を中心に虐待研修を行っている。 また、事業所管理者はスタッフへの研修を行っている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5	3			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8				保護者様のヒヤリングにて食物アレルギーを確認はして ます。医師の指示書に基づく対応はしてません。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	4			ヒヤリハットの事例集増やし、ヒヤリハットが起きる前 に対応していく。